

受付番号3番、質問議員11番、堀口恵一。

件名、「1、山北駅周辺にある観光桜の老木対策計画を」。

「2、新型コロナ対策として樹木のフィトンチッド効果を」。

1、本年6月の大雨の際、鉄道公園の西側JR敷地内の1本目の桜が、下から50センチから1メートルのところで折れて倒れた。他の桜を見るに、JR敷地内にある多くの桜が手入れもできないまま傷んでいる状況となっている。山北ホームページでは、プロモーション画像として、桜とロマンスカーの写真を紹介しており、桜の名所ということになっているがプロモーションとのギャップが生まれているのが現状である。今後、順次、老木が倒れることが危惧され、何か手を打たないといけないのではないかと思います。

そこで質問する。

①今後、順次JR敷地内老木が倒れていくことへの対策計画などはあるか。

②健康福祉センターから鉄道公園までの南側の桜はJRの敷地ではないので、町で下草刈り、桜に絡まったつるや苔の除去、さらには新しい苗を植えたりすることはできると思うので、計画的に、年間継続した景観管理をしていくべきと思うがどうか。

2、プレスリリース配信サイトの配信記事（PR TIMES 2月19日）によると、森林浴成分として知られるフィトンチッドの溶液研究と用途開発を行っている日本の会社が、「新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）へのウイルス不活化試験を実施し、その不活化効果を確認しました」とある。前々から森林浴は体によいとされているが、呼吸器系が重症化しやすい今回の感染症に対抗するには、我々が吸っている酸素をつくり出し、さらにフィトンチッドまで出している樹木を尊重することは大切ではないかと思ひ質問する。

①長期化するウイルスに対抗する手段として、樹木のフィトンチッド効果に期待する考えはどうか。

②町の定住対策ではアウトドアライフスタイルをコンセプトに樹木のある住宅建設も決まった。そのような中で管理は大変であるが、山北駅前ロータリーや旧役場庁舎跡地に樹木を植栽するなど、まち中でもバランスを見て植

えていく方針を示すという考えは、新型コロナ対策としてはどうか  
以上。

議 長 答弁願います。

町長。

町 長 それでは、堀口恵一議員から「山北駅周辺にある観光桜の老木対策計画を」、  
「新型コロナ対策として樹木のフィトンチッド効果を」についての御質問を  
いただきました。

初めに、1点目の「山北駅周辺にある観光桜の老木対策計画を」について  
1番目の御質問の「今後、順次JR敷地内老木が倒れていくことへの対策計  
画などはあるか」についてであります。山北駅周辺にある桜の木は、昭和  
25年頃に町民有志の発案により植栽されたとの記録もあり、ここ数年は、毎  
年のように台風や大雨により倒木被害が発生しております。町では、桜の木  
の管理のために台帳を作成し、定期的に状況を観察するとともに、枝打ちや  
消毒を実施しておりますが、植栽から70年以上という年数を経ているため、  
寿命を迎えている木も多くあり、倒木に至っていると考えられます。

倒木した際の対応につきましては、JR東海とも情報共有を密にし、倒木  
時の取扱いについて、あらかじめ取り決めることや、樹木医による診断等を  
含め、山北駅周辺の桜を残していくのか、または、新たな桜の名所を整備し  
ていくのかという将来的な在り方についても検討してまいります。

次に、2番目の御質問の「健康福祉センターから鉄道公園までの南側の桜  
は、JRの敷地ではないので、町で下草刈り、桜に絡まったつるや苔の除去、  
さらには新しい苗を植えたりすることはできると思うので、計画的に、年間  
継続した景観管理をしていくべきと思うがどうか」についてであります。  
御質問のありました土地は町有地であり、町が維持管理に努める必要があり  
ますので、道路の通行上、支障となる草木につきましては、下草刈り等を実  
施してまいります。

また、桜の木の管理につきましては、今後、樹木医による診断を受けた上  
で、適切な保全対策を実施するとともに、必要に応じて桜の木の更新を図っ  
てまいりたいと考えております。

次に、2点目の「新型コロナ対策として、樹木のフィトンチッド効果を」

についての1番目の御質問の「長期化するウイルスに対抗する手段として、樹木のフィトンチッド効果に期待する考えはどうかについてであります、樹木のフィトンチッド効果、いわゆる森林浴の効果は様々な研究により、病原菌やウイルスに対しての抗菌、除菌力、または老化防止、抗酸化能力やリラックス効果が報告されております。御質問にあります国内企業により実施されましたウイルス不活性化試験においても、フィトンチッド溶液による新型コロナウイルスの不活性化効果が確認されております。この研究はお茶に含まれるカテキン類やうがい薬の成分であるポピドンヨードによる不活性化効果と同じように、新型コロナウイルスに対する殺菌や不活性化効果が期待できるものとされており、また手指消毒液や台所用合成洗剤、住宅家具用洗剤などの日用品においても、不活性化試験でウイルスに対する有効性が確認されたものが国内外で報告されております。この研究結果は試験環境下において、フィトンチッド溶液と新型コロナウイルスの溶液を混合した場合に、不活性化が確認されたもので、屋外の樹木からフィトンチッドが揮発した状態において、不活性化が確認されたものではなく、限定的な状況下で不活性化が確認されたものですので、効果を見込むときには、さらなる研究が必要だと考えております。

次に、2番目の御質問の「街中でもバランスを見て樹木を植えていく方針を示すという考えは新型コロナ対策としてどうか」についてであります、現時点においては、町内各所への樹木の植栽によるフィトンチッドの不活性化効果により、新型コロナウイルス対策を期待することは困難であると考えております。ただし、森林浴によるフィトンチッドの健康に対する様々な有効な効果は重要なものと捉えておりますので、樹木の保護につきましては、引き続き行ってまいります。

議 長 11番、堀口恵一議員。

11 番 堀 口 1 番目の倒木の件ですが、6月に倒れた桜の木は現在まだ倒れたままで、注意看板、ロープなどがついておりますが、いつ頃どうなるかということについて分かっていたら、お願いいたします。

議 長 商工観光課長。

商 工 観 光 課 長 J R の敷地内ということもありまして、J R との協議に非常に時間がか

かったというのは要因であります、9月の補正のほうで、補正予算案として挙げさせていただいておりますので、よろしくお願いいたします。

議 長 堀口恵一議員。

11 番 堀 口 予算が通れば、すぐ実行されるということでしょうか。

議 長 商工観光課長。

商 工 観 光 課 長 はい、予算が通ればという形ではあります、可能な限り早めに執行させていただきますかと思っております。

議 長 堀口恵一議員。

11 番 堀 口 1番の質問ですが、樹木医による診断を含め、山北駅周辺の桜を残していくか、また新たな桜の名所を整備していくのかとか、詳細、在り方についても検討してまいりますとありますが、現状のJR敷地内の桜について、駅については、つる、草などの除去をして、様子を見て、駄目な木と駄目じゃない木の選別を早めにしないと、同じように順繰りに倒れていくという状況になってしまうかと思うんですけど、JRと協議しているということですが、そういった、先に1回除去して様子を見るという段階はないのでしょうか。

議 長 商工観光課長。

商 工 観 光 課 長 現状においても、桜の、山北町のほうで予算を計上させてもらって執行しているのは、消毒と枝打ちでございます。こちらについては、事業実施の中で通常どおりやらせていただく考えでございます。しかし、桜の木の性質のほうで御理解が私も甘かった部分があるのですが、桜の木、特にソメイヨシノというのは、非常に病気はしやすい木だということは有名だということが、改めてよく分かりました。例えば、木の根を傷つけてしまった。枝をちょっと傷つけてしまった。そうすると、そこから、もう菌が入り込んでしまう。結果として、道路沿いにある桜でよく見かけるのが、サルノコシカケというのがあつたりしているのがあります。特にキノコ類がすごくついてしまって。そうなりますと、非常に中にまで侵食してしまうというような話も分かりましたので、ちょっとそこら辺になりますと、樹木医というレベルでないと、なかなか難しいのではなかろうかということで回答をさせていただきます。

議 長 堀口恵一議員。

11 番 堀 口 樹木医による診断等を含めということで、話を書いてありますけれども、  
大体期間的なスパンで考えた場合、どういった考えでおられますでしょうか。

議 長 商工観光課長。

商工観光課長 期間的なスパンと言われるとちょっと難しいものがあります。現状、桜  
の管理台帳で管理している桜の本数は121本ございます。こちらの中で、実  
際にこのような形で樹木医による診断をやったというのが、都内のほうでも、  
桜のほうのはやっているらしいのですが、その中から実際に外観審査をし、  
さらに精密的に1回診断をし、対処が必要、特に危険木と判定されているも  
のがありましたならば、その部分は伐採等の対応をします。そういった形  
の段取りを踏むという形で、一般的にはやっているそうです。

ですので、具体的にこれになりますと、やはり正式な発注をさせていただ  
かないと時期の判定というのは難しいのかなと考えております。

議 長 堀口恵一議員。

11 番 堀 口 今聞いた話ですと、状況的に言いますと、今回1本倒れてしまったという  
結果が出ちゃったわけですけども、このままいくと倒れたら、取りあえず危  
険がなければ、順番に倒れていくと、そういう状況になってしまうかと思  
うんですけども。そのような考えでよろしいんですか。

議 長 商工観光課長。

商工観光課長 桜、ソメイヨシノなんですけども、環境がいいところでは相当長く立っている  
と花が咲くというような状態ではあるそうです。ですが、こちらにもありま  
すが、昭和25年に植栽しました。樹齢としては、もう70年を経過しているも  
のになります。ソメイヨシノ、一般的には60年から70年と言われているとい  
うことなので、ちょっと、そこら辺はどのような体制が取れるかというのを  
早めに検討させていただければと考えております。

議 長 堀口恵一議員。

11 番 堀 口 観光面から考えたときに、桜が順繰り衰えてしまうという状況というのは、  
あまりよろしくないのではないかなと思いますので、どうも話を聞いた限り  
ではいい感じにまでいかないのかなと思えるのですけれども、何かそれを払  
拭するような話というのはありませんでしょうか。

議 長 商工観光課長。

商工観光課長 一番難しいのは敷地の関係です。やはり御質問にもありますが、JRの用地という形になっております。そうなってきますと、樹木の場合、伐採じゃなくて、例えばそれで木が倒れてしまった。そして、その枝が落ちてしまったと。そういった場合には、管理者、もしくは土地の所有者という者が全ての責任を負わなきゃいけないとなっております。ですので、承知している状態で放置をしている形になっていきますと、それは、仮にそれで事故があった場合には、非常に裁判などがあった場合には厳しい状態になるという形では聞いておりますので。まず、適正なものが、維持管理として残せるものは当然残していきたいです。しかし、かなり厳しい状態にあるものについては対処せざるを得ない。伐採等の対処をせざるを得ないようなものが出てくるのではなかろうかと考えております。そこら辺を判断するための材料として、今回、ちょっと樹木医という形でお名前を載せさせていただきたいと思いません。

議 長 堀口恵一議員。

11 番 堀 口 このところは、しっかりやらなきゃいけないところだと思います。ですが、やっていくんだという気持ちのほうはどうでしょうか。

議 長 商工観光課長。

商工観光課長 やはり山北町の、特に駅前周辺の桜というのは、非常に重要な観光資源というような認識は当然のごとく持っています。ですので、適正な維持管理を努めて、少しでも長く咲いていただけるように何とかしていきたいというような思いは持ち、必要な対策を講じさせていただきたいと思っております。

議 長 堀口恵一議員。

11 番 堀 口 ②の健康福祉センターから鉄道公園までのほうの桜についてですが、「適切な保全、自然対策を実施するとともに、必要に応じて桜の木の更新を図ってまいりたいと考えております」とありますが、どうしても保全というと、場当たりの対処になりやすいわけですが、いわゆる木が植わっているという話ではなくて、景観を管理するという形で進めるべきだと思うのですが、何か景観管理という視点での何かお考えはありますでしょうか。

議 長 商工観光課長。

商工観光課長 景観の管理というと、こちらについては、まず道路の通行上の支障とな

る草木、草木や、下草刈りなどをさせていただくという形では、回答のとおりでございます。

また、桜の木も本当に老木化しておりまして、枝が、もう枝だけになっているものもございます。そうなった場合、そこら辺に、要は花が満開の状態  
で枝だけになっている。これも景観的にはあまり望ましい姿ではなかろうと思われ  
ますので、そこら辺の中で枝打ちをさせていただく等の対処はさせていただきたい  
と思います。

議 長 堀口恵一議員。

11 番 堀 口 今、大きな展示会などでは、造園業から景観産業へというテーマで講演を  
する造園業者もあります。シミュレーションで景観提示してプランを立てる  
などで納得した管理ができるようなPRもしているところもあります。バー  
チャルと実際効果、融合する時代になっていますから、かえって、そういう  
ちゃんとした想定をして、シミュレーションをしてやったほうが安くて無駄  
がない。しかも、景観もよくなるということができるとも思わ  
んですが、そういったところの情報を取り入れるという考え方はどうでしょ  
うか。

議 長 商工観光課長。

商 工 観 光 課 長 今のお話は、ちょっとすみません、私も耳にしたのは初めてだったので、  
検討という中에서도入っておりませんでした。先ほど申しましたソメイヨシノ  
というのは、非常に病気をしやすい樹種です。例えば、木の根に少しでも傷  
がついてしまうと、そこから根のほうから入ってくる菌が入ります。そうな  
りますと、土のほうにも、当然土壌汚染というのが発生してくる可能性があ  
るということを文献のほうで確認させていただいております。仮にそうなっ  
た場合には、土の土壌改良をしてからでないと、桜の木をいくら植えても、  
新しい木のほうに更新をしたくても、新しい木のほうが、また病気になっ  
てしまうということもありますので、そこら辺も含めて、対応策のほうは考え  
させていただきながら、何とか保全という形のほうを図っていければと思  
っております。

議 長 堀口恵一議員。

11 番 堀 口 今話にありましたとおり、土壌改善とかもやっていきますと、かなりちゃ

んとして見れる形にするために、時間がかかるということだと思っております、今の何となく聞いている話のペースだと、普通であれば、ずっと景観としていい状態を保っていたいわけですが、ちょっとまだ先が見えないという感じがしちゃうんですけども。もう少し力を入れるという考え方はないのでしょうか。

議 長 商工観光課長。

商工観光課長 こちら、桜の木の樹齢というものもありまして、本当に、今このタイミングがぎりぎりの瀬戸際の状態だとは考えております。確かに、更新が定期的にできていけば非常によかったのかもしれませんが、今、事に至っている状態ではありますので、まずは現状をいかにして保全していくのかというのを主眼に置きながら対策を講じさせていただきたいと思っております。

また、必要なものを当然、元気な桜も当然あるわけですので、そこについては、何とかより元気に花を咲かせてもらうような対策というのものもあるそうですので、そこら辺につきましても、ぜひ検討の中に入れていただければと考えております。

議 長 堀口恵一議員。

11 番 堀 口 2番のほうの質問ですが、フィトンチッド効果に期待する考えはどうかについての答えですが、限定的な状況下で不活性化が確認されたものですので、効果を見込むにはさらなる研究が必要だと考えております。これは、多分、実証実験しないと出てこない話なんだと思いますが、おそらく人類が都市化して、どんどん過密になってきたという状況があって、SDGsなんかでも持続可能なという話も出てきていますが、今限界に来てしまっている状況なのかなと思う状況でありまして。今回のワクチンについても、結構、実証実験しながら進んでいる状況かと思うんです。ある面、山北町では、結構空き店舗もあつたりとかで、スペースを取って何かするというのは、木を植えるというのが可能なのではないかな。ある意味、実証実験になろうかと思うんですけども、例えば実証実験で駅前の雰囲気づくりですけども、駅から森林浴とか駅からセラピーというイメージで特徴づけるというのも、一つかと思うんですけども。

また、土日だと、今スポーツ自転車で割と来ているかと思うんですけども。



そういった人たちもやってもらうような自転車の駅というふうに銘打って、駅前に自転車ロックですか、安全にロックできる、要するに自転車で駅前まで来てもらって、そこから散策してもらうとか、セラピーに入るとか、いろいろ発展系が考えられると思うのですが。今現在、先ほど効果を見込むというのは、やっていないから分からないという話になるかもしれないのですが、逆に実証実験しているという話で進めることは可能なんじゃないかなと思うのですが、どうでしょうか。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるように、いろいろな、山北町、自然が非常に豊富だということで、森林も非常にあるというようなことですので、いろいろな方法がコロナの中でも可能ではないかというふうに思っております。

また、感染者数も二桁台に抑えているということで、そういった意味も含めまして、様々な方法があれば、ぜひそれを実現して行って、そしてやっていきたいというふうに思いますけども、木を植えて、どうのこうのということは、これだけ自然がありますので、桜の木はもちろんやっていかなければいけませんけども、普通の樹木については、むしろ本数を減らしても大きくしていく。あるいは、光が入っていくようにする、そういうようなことのほうが大事ではないかというふうに考えております。

議 長 堀口恵一議員。

11 番 堀 口 樹木のフィトンチッド成分というのは、樹木の下とか、要するに自分の木を守るために出ている部分が結構ありますので、身近な、かなり接近したところになると、効果が薄くなってしまいうけなんですけど。そういった意味で、身近なところという意味なんですけど、どうでしょうか。

議 長 保険健康課長。

保 險 健 康 課 長 実証実験につきまして、町が研究していくというのはちょっと難しいかなというふうに考えております。今町長が申し上げたとおり、山北町森林が93%あります。そういった意味で森林セラピー等、もともとある自然を活用しながら健康づくりに努めていきたいというふうに考えております。

議 長 副町長。

副 町 長 町長の答弁でもありましたけど、限られた条件の中でやったものであるの

で、さらなる研究、効果に対しての研究が必要なんだというようなことを町長が答弁してございます。これは町の公式見解でありまして、限られた研究の中で、さらなる効果を得られるために、町が主体になってやるのか、民間が主体になってやるのか、その辺のところはまだ今の段階では分かっていないということでございます。

議 長 堀口 恵一議員。

11 番 堀 口 先ほど、町なかに緑をとという話なんです、今やっぱり山北町高齢化してしまっ、手が入れられないとかいろいろありますし、役場の対処能力もやっぱりパワー的に広い面積を扱うには大変という状況かと思しますので、難しいのかもしれないのですが、管理しやすい緑化という形、先ほどの効果が期待できない、できるということは証明されていないのだという話で言われているかと思えますけれども。多分おそらく我々体感で感じていると思うんですけども、新鮮な空気を吸えば、呼吸器系も楽になるし、体の調子もよくなるというのがありますし、よいことがあると思うのです。ただ、手間がかかるというのが確かにありますので、最近軽井沢なんかはどうやっているかという、自動のルンバみたいな草刈り機が最近安くなってきて、芝生だから比較的低い草でしょうけども、自動で設定した範囲を自動で切ってくれとか、そういうこともありますので。例えば、役場で自動草刈り機16万とか20万とか、そんな程度のものでルンバみたいなのが出ているらしいんですが、そういうのを活用するのは、比較的平地じゃないとできないものですから、そういった意味では町なかをやると、すごく大変だというイメージがありますけども、逆に少ない経費で効果を出すということが出来るんじゃないかと思うんです。かなりあちこちで今使われ始めていて、軽井沢の公園というのが一番大きかったんですが、ほかでも結構使った人の評判もいい状況になっていますので、ちょっと考えていただけないでしょうか。どうでしょうか。

議 長 副町長。

副 町 長 町有地の空いているところ、それから民地のそういうところに、町なかに全部木を植えていくということは、やはり賛否両論ありまして、もっと土地を有効に使いたいという面もありますし、やはりそれから民地の中に木を植

えればいと、誰が植えるんだと。町が買収して、木だけを、全部土地を、空き地を買収して、木だけを全部植えていっちゃえばいいのか。いろんな考え方がありますので、さらなる研究が必要になるということでございます。

それから、さっき言いました桜の問題でも、健康福祉センターから鉄道公園のところまで、町用地なんで、桜の木を植えたらいいんだというようなこともおっしゃいましたけれども、今、町としては機関車D52を延伸させようと、動かそうとしているわけです。その辺を見た中で、将来的な鉄道公園の在り方等々も含めた中で検討していきたい。広い意味で長い年月をかけてどうなのかということを考えていきたいというふうに思います。旧役場庁舎の中に木を植えちゃって、果たしていいのかどうか。その辺のところは、やはりいろいろな議論があると思います。それについては、やはりもう少し時間をいただきたいということでございます。

議 長 堀口恵一議員。

11 番 堀 口 ちよっと今旧役場庁舎の話が出たので、あそこはラジオ体操とか朝によくやっているわけですがけれども、夏場は日影がなくて、結局、別の敷地のほうに行って、女性の方なんかは木陰でラジオ体操をやっているわけですが。旧役場の敷地についても、先ほど、あちらこちらに木を植えてしまうような話をされたわけですが、そうじゃなくて、バランスよくという話が、私のほうから言ってまして。要は例えば、端っこのほうで日陰になるような木陰をつくって、例えばちょっとしたベンチがあれば、公園兼、または、通常時は駐車場に使うことも臨時的には使えるよとか、何か複合的に使える形には可能だと思うんですけども。ある人は、あそこを、ある程度公園化して管理してほしいという人もいるし、あそこはそれなりの広さがあるので、隣も最近空き地化、空き家ができたので、そこが、草ぼうぼうになっていますから。そういった状況もありますので、ある意味、一概にやたらめったら木を植えちゃうという話では、確かに大変になっちゃうのは、大変なので、そうじゃないやり方もあるんじゃないかなと。要するに、バランスよくというところで、無理しない形で、しかも木陰をつくって、ベンチでも置いたら休めるとか。そういった駅からセラピーとか、駅から森林浴ですか、それで打って出るというのが、何かありかなというふうに思うわけですがけれども。

先ほどの話に戻ってしまいますが、ちょっとこれ、取り留めのない話になってしまうので、例えば、将来的に実は森林浴は効果があるのだということになるかもしれませんので、そのときにはちょっと思い出してもらえればというふうに思います。

それから、ウィズコロナの時代です。ウィズコロナ、全てを止めるわけではなく、動けるところは積極的に動く張りをつけるべきであり、何がよくて何が悪いかを選別していくべき時代だと思いますが、最後にそれについて、町長の考えをお聞きして終わりにしたいと思います。

議  
町

長 町長。

長 何を申し上げていいか、あれなんですけども。この質問の中にある、特に森林セラピーについては、私もコロナがこういうようなときになったときに、山北町、森林セラピーやっておりますから、そういった中で、コロナでできないかということで、イヤホンガイド20台購入しております。そういう中では、要するに近づかないで10メートル、20メートル離れても全然イヤホンガイドを使えば、説明から何から全部できますので、そういったような中で、コロナでも、そういったような森林セラピーをやって、そして、フィトンチッドがあることによって、さらに健康になるというようなことができないかということで、いろいろやらせていただきました。そういった中で、ぜひとも、私としては、いろいろなコロナ禍の中で、みんないろんなイベントが全部中止になっている。そういう中で、山北町として、そういったような自然を持っているという町でございますので、そして、またワクチン接種も60%以上いっている。また、そういったような森林セラピーのようなものもあるというようなことで、ぜひとも、できれば大人数じゃなくてもいいですけど、本当に少ない人数でも、そういったことにチャレンジしながら、町の自然、そして、また堀口議員のおっしゃるような、そういったような自然のものを、桜も含めて増やしていければ幸いだというふうに考えておりますので、ぜひ皆さんからいろいろな御意見をいただければというふうに思っております。